

2012 公開シンポジウム「がん放射線治療の基礎と臨床をつなぐ」を開催しました

茨城大学理学部 公開シンポジウム「がん放射線治療の基礎と臨床をつなぐ」(第5回 Quantum Medicine 研究会ならびに茨城大学研究推進プロジェクト「がん放射線治療に関する生命基礎研究」講演会)を平成24年3月4日(日)に理学部K棟インタビュースタジオにて開催し、茨城県内外の9つの教育研究・医療機関の関係者および一般から31名の参加がありました。世話人の趣旨説明に続き、タンパク質の構造解析、がんの放射線治療、DNA 損傷修復の臨床との関連、そして原発事故で話題となっている低線量被ばくの研究状況に関する7件の演題が発表され、当初の終了予定時間をオーバーするほどの活発な議論が展開されました。毎年1回ではありますが、茨城県および周辺地域で行われている創薬やがん治療に関する最先端研究を再認識する良い機会となっており、互いの連携を深めながら研究・人材養成の輪をさらに広げてゆくことができると考えております。

プログラム

- 10:00-10:05 開会にあたって 世話人(田内 広)
- 10:05-10:35 「紫外共鳴ラマンスペクトルと量子化学計算から見える、
プロスグランジン D2 合成酵素の機能」
高妻孝光 (茨城大学大学院理工学研究科)
- 10:35-11:10 「DNA 二重鎖切断修復機構のアトミーと医療応用への展望」
松本義久 (東京工業大学原子炉工学研究所)
- 11:10-11:40 「リンパ球の DNA-PK 活性、NBS1 フォーカスと癌罹患性」
染谷正則 (札幌医科大学医学部放射線医学講座)
- 11:40-12:10 「ペースメーカーに対する陽子線治療の影響」
橋本孝之 (筑波大学放射線腫瘍科)
- (昼休憩 12:10-13:00)
- 13:00-13:30 「PARP 阻害剤の放射線増感効果について」
坂田耕一 (札幌医科大学医学部放射線医学講座)
- 13:30-14:10 「重粒子線による生と死のシグナル制御」
高橋昭久 (群馬大学先端科学研究指導者育成ユニット)
- 14:10-14:35 「低線量放射線被ばく影響の解明に向けた基礎研究」
田内 広 (茨城大学理学部)
- 14:35-14:50 総合討論
- 14:50-15:00 閉会にあたって
永井秀雄 (茨城県立中央病院・茨城県がんセンター)

